

地域アクションプラン進捗管理シート 総括表

《幡多地域：第1四半期》

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>1 水稲と露地野菜を基幹とした水田農業の担い手育成</p> <p>《幡多地域全域》</p> <p>持続性のある水田農業を確立するため、水稲と露地野菜を基幹とした大規模経営体、またはそれを志向する農業者を対象に、規模拡大による生産性の向上と安全・安心・高品質生産を推進し、所得向上と雇用創出を図る。</p> <p>【JA高知はた】</p>	<p>○大規模志向農家のネットワーク化に向けた「交流会」を開催し、志向農家はもとより関係機関への意識付けにつながった。</p> <p>○指標達成経営体数、H25:4経営体</p> <p>○ネットワーク参加者8戸→16戸(H25)</p> <p>○省力・低コスト技術導入農家1戸→5戸(H25)</p> <p>○露地有望品目検討2品目(H25)</p> <p>○H24産振アドバイザー制度活用(1回)</p> <p>◆既存大規模農家と大規模志向農家のネットワーク拡大による情報共有、相互研鑽。省力、低コスト技術の普及。農地及び労働力幹旋システムの整備。幡多地区での露地有望品目現地適応性の検討。</p>	<p>・ブロッコリー大規模経営に向けた研修会を行った。(2回)</p>
<p>2 洋ランのブランド確立・流通促進事業</p> <p>《宿毛市》</p> <p>宿毛市内の生産者をはじめ、県内の洋ラン生産者が新たな組織を立ち上げ、各生産者が生産した洋ラン商品を一元的に集荷、パッケージ化し、市場を通じたこれまでの流通に加えて、直接小売店や消費者に販売する。</p> <p>【石田蘭園、蘭遊 六志会】</p>	<p>○集出荷施設等整備(H25)</p> <p>○県外出展等販促活動(H25)</p> <p>◆体制の充実・強化</p>	<p>・ネット販売のHPを作成・運用開始(7月末に公開予定)</p>
<p>3 有機農業普及・拡大事業</p> <p>《四万十市》</p> <p>安全・安心な有機栽培による米や野菜の消費を拡大させる取組を進めることにより、地域住民の健康や農業振興・商業振興につなげ、「有機農業四万十市」の定着を目指す。</p> <p>【四万十市】</p>	<p>○有機農業の普及拡大(H21～H25)</p> <p>○高付加価値農業の研修(H21～H25)</p> <p>四万十市の一般市民を対象に、H21から継続して「生産技術研修会」を開催</p> <p>○有機農産物流通システム推進事業(H22～H25)</p> <p>21軒の家庭へ有機野菜を宅配</p> <p>○緊急雇用創出臨時特例基金事業を活用、宅配(一般家庭)の募集と事業PRを実施</p> <p>◆有機農産物のさらなる認知度向上</p> <p>◆有機農産物の栽培技術の向上</p> <p>◆需要の拡大(PRと販売促進)</p>	<p>・高付加価値農産物生産計画・技術力向上研修の開催(3回)</p>
<p>4 6次産業化推進による地域農業振興事業</p> <p>《大月町》</p> <p>ケール等の農産物の加工設備を整備し生産拡大に取り組むとともに、その他地域農産物についても、加工品等開発、販路拡大に取り組む。これにより、地域農家との連携協力体制を構築し、遊休農地の活用につなげるとともに、地域農産物の生産拡大、加工品開発、販売強化を通じて、地域雇用を生み出す。</p> <p>【(株)大月農園】</p>		<p>・緊急雇用事業(7,478,524円)の導入</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		<p>【指標】販売額1,500万円以上の農業経営体数 (H22:2経営体)</p> <p>【目標(H27)】 10経営体</p> <p>【H26到達点】 5経営体</p>
		<p>【指標】売上高 H23:85,197千円</p> <p>【目標(H27)】 128,300千円</p> <p>【H26到達点】 105,900千円</p>
		<p>【指標】環境にやさしい農業取組面積の増加 (H22:約1,000a) 有機野菜の出荷率出荷量の増加 (H22:約30%)</p> <p>【目標(H27)】 農業取組面積 2,500a 出荷率 50%</p> <p>【H26到達点】 農業取組面積 2,200a 出荷率 45%</p>
<p>・2名の雇用</p>		<p>【指標】売上高 (H24:33,138千円)</p> <p>【目標(H27)】 35,000千円</p> <p>【H26到達点】 30,000千円</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>5 三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築</p> <p>《三原村》</p> <p>三原村の環境を生かした中山間の農業振興策として、農業公社を核としたユズ、ブロッコリーの産地化を目指す。</p> <p>【(公財)三原村農業公社、三原村、JA高知はた】</p>	<p>○ユズの産地化の推進(H20~23)</p> <p>・幡多管内ユズ栽培面積・生産量・・・H19: 56ha、488t→H23: 79ha、642t (うち三原村:H19: 7.6ha→H23: 22.1ha)</p> <p>○生産量拡大と有利販売の推進(H20~)</p> <p>・青果率向上対策としてJA高知はた全域で共同選果体制構築。市場評価が向上。</p> <p>○栽培維持、発展に向けた支援システムの構築(H21~)</p> <p>・三原村農業公社が農地集積し、ユズ10ha、ブロッコリー1.2haを直接栽培。常勤6名雇用、農作業受託・機械リース等、中山間地域の新たなビジネスモデルの推進。</p> <p>○H24産業振興アドバイザー事業活用(加工施設導入に向けた課題の共有化)</p> <p>○三原村でのユズ生産量等(H24~)</p> <p>・生産量=H24: 90.8t→H25: 115.8t</p> <p>・販売金額=H24: 12,515千円→H25: 17,363千円</p> <p>・栽培面積=H24: 31ha(うち公社15.6ha)→H25: 32.5ha(うち公社17.7ha)</p> <p>○三原村農業公社による酢玉・加工ユズ販路開拓(H25: 1社、105t)</p> <p>◆生産拡大に伴うユズ果汁過剰による加工用ユズ価格の低下、高齢者率増加・後継者不足、新規生産者の確保、ユズ加工製品増加による競争激化等。</p>	<p>・三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築に向けて、関係機関による、加工施設導入等の課題共有化</p> <p>・高知県緊急雇用創出臨時特例基金事業補助金【起業支援型地域雇用創出事業(9,337千円)】、高知県ふるさと雇用再生特別基金事業補助金(18,884千円)(県1/3、村2/3)の実施</p> <p>・ユズ加工品の販促活動</p>
<p>6 「若山楮」ブランド復活プロジェクト</p> <p>《黒潮町》</p> <p>古くから地域で特産品となっていた「若山楮」の産地復活を目指した、栽培拡大および加工技術向上による産地・ブランド化に取り組む。</p> <p>【黒潮町、黒潮町佐賀北部地域協議会】</p>	<p>○楮栽培の推進(H21~)</p> <p>栽培面積(収穫量)・・・H21: 32a(0.6t)、H22: 37a(1.2t)、H23: 39a(1.2t)、H24: 59a(1.0t)、H25: 71a(0.9t) (うち遊休農地利用栽培面積11a)</p> <p>○当初5年間(H20~24)の継続補助予定であった国事業(200万円×5年)が事業仕分けによりH21をもって終了。計画全体を見直し地道な活動に取り組む中、栽培面積も少しずつ増加している。</p> <p>○「若山楮が古文書修復に適している」として、専門分野からの発注もあるなど、今後に期待が持てる。</p> <p>◆活動継続等に係る地域内の検討不足</p> <p>◆活動経費の不足</p> <p>◆マンパワー不足</p>	<p>・月1回ペースの活動検討会開催(6月末現在: 3回)</p>
<p>7 弘法大師ゆかりの七立栗 特産品化計画</p> <p>《黒潮町》</p> <p>黒潮町馬荷地区で栽培されている「七立栗」の生産を拡大し町の特産品にすることで、地域の活性化と産業の創出を目指す。</p> <p>【七立栗生産組合、黒潮町】</p>	<p>○七立栗出荷農家数(面積)</p> <p>H21: 1戸(10a)、H22: 5戸(20a)、H23: 7戸(43a)、H24: 10戸(66a)、H25: 10戸(71a)</p> <p>○七立栗出荷量</p> <p>H22: 6,120本、H23: 4,605本、H24: 10,010本、H25: 12,675本</p> <p>○集荷場建設(総事業費441万: 集落営農補助金: 県・町・実施主体 各1/3負担)。(H23)</p> <p>○当初計画していた温泉施設は、財源の問題より困難と判断した。(H24)</p> <p>○七立栗の栽培面積が増え、集落営農導入及び基幹品目としての検討が始まった。(H24)</p> <p>○七立栗を花き(枝栗)として出荷するため品質や収量、流通についての問題点が明確となり、生産者の生産に対する意識がまとまり始めた。(H25)</p> <p>◆生産力の向上(栽培面積、出荷量の増加)</p> <p>◆高品質枝栗の生産(鮮度保持技術の検討)</p> <p>◆枝栗栽培方法の確立、病害虫対策の実施</p> <p>◆耕作放棄地の活用</p>	<p>・高知フラワーアドバイザー(高知の花き総合PR事業)との産地交流会(1回)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・県緊急雇用事業で3名、県ふるさと雇用事業で6名雇用。		【指標】 ユズ生産量 (H19:65t) (H22:74t) 栽培面積 (H19:7.6ha) (H22:22ha) 販売金額(農家手取額) (H24:12,515千円) (H25:17,363千円) 【目標(H27)】 ユズ生産量 400t 栽培面積 50ha 販売金額(農家手取額) 27,500千円 【H26到達点】 ユズ生産量 120t 栽培面積 37ha 販売金額(農家手取額) 18,000千円
		【指標】 栽培面積 (H22:37a) 椿収穫量 (H22:1,232kg) 【目標(H27)】 栽培面積 60a 椿収穫量 2,900kg 【H26到達点】 栽培面積 71a 椿収穫量 1,500kg
		【指標】 栽培面積 (H19:10a) (H22:20a) 出荷量 (H22:6,120本) 【目標(H27)】 栽培面積 140a 出荷量 35,000本 【H26到達点】 栽培面積 90a 出荷量 20,000本

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>8 有望品目への転換を含めた、大方南部地域の産地再生</p> <p>《黒潮町》</p> <p>シュッコンカスミソウ、テッポウユリの産地として知られる黒潮町南部地域において、灌漑事業の導入等による新たな花き・野菜等の生産により地域振興を目指す。</p> <p>【黒潮町、JA高知はた】</p>	<p>○シュッコンカスミソウの品質向上対策として、バケット輸送や市場性の高い品種(アルマイル、マリーベール)への移行を推進(H21~24)</p> <p>○マーケティング調査により、小売り店が嗜好する品種の定着化を推進(H22)</p> <p>○新品目の栽培を推進(H21~24)</p> <p>(H23園芸年度<H22.9~H23.8>) =ダリア:4戸24a、テマリソウ:3戸26a)</p> <p>(H24園芸年度<H23.9~H24.8>) =ダリア:4戸57a、テマリソウ:3戸40a)</p> <p>(H25園芸年度<H24.9~H25.8>) =ダリア:4戸45a、テマリソウ:4戸31a)</p> <p>○南部地域での点滴栽培の検討と用水対策の具体的な検討開始(H23~)</p> <p>○中の谷・ヤリガサヤ地区では用水対策について地区が合意したことによる事業計画推進(H25~)</p> <p>○花き栽培面積・・・H24:18ha→H25:18ha</p> <p>○野菜栽培面積・・・H24:2.7ha→H25:2.7ha</p> <p>◆慢性的な水不足より栽培可能な品目が少なく、シュッコンカスミソウの代替品目もない。ダリア・テマリソウ・ニラ等は可能性があるが、用水対策・省水栽培技術の取組が必要。</p>	<p>・点滴灌水実証圃の継続実施(シュッコンカスミソウ:1戸)</p>
<p>9 森の工場・間伐の推進</p> <p>《幡多地域全域》</p> <p>意欲がある林業事業者が中心になり、一定規模のまとまりのある森林を対象に森林所有者から長期に施業を受託することによって、森林の管理や施業などを集約する森林経営の団地を「森の工場」として認定し、木材を安定的に供給する産地体制を確保するとともに、地域の森林資源の充実を図るための間伐を積極的に推進する。</p> <p>【森の工場の認定を受けた事業者】</p>	<p>○H21~H25に高性能林業機械等34台導入、作業道開設246kmの整備を行った。</p> <p>木材生産量:74,649m³(H21-23累計:43,353m³+H24:19,446m³+H25:11,850m³)</p> <p>○森林施業プランナー養成研修を支援することにより、一次試験の受験資格者が24名となった。</p> <p>○森の工場は建設業の参入を含め30工場を新設した。(H21~H23:22工場+H24:4工場+H25:4工場)</p> <p>◆集約化の推進による森の工場の設置</p> <p>◆基盤整備推進による木材生産性の向上</p> <p>◆技術者の養成</p> <p>◆事業者の経営改善</p>	<p>・森林組合及び事業者への説明会を実施(1回)</p> <p>・森林経営計画の作成を支援</p>
<p>10 「四万十の家」と地域産ヒノキの販売の推進</p> <p>《四万十市》</p> <p>平成22年度に建築したモデルハウス「四万十の家」をPRすることで四万十ヒノキを利用した住宅建築を促進する。また、四万十ヒノキのブランド化を図り、地域内外への販売を促進する。</p> <p>【四万十市】</p>	<p>○H23.4月よりモデルハウス利用開始、林業関連事業者の学習会場としての利用や一般利用等、当初目標以上の利用状況であり、地域産ヒノキの積極的なPRにつながった。</p> <p>○4市町村(四万十市、三原村、四万十町、中土佐町)による推進協議会の発足により、地域産ヒノキのブランド化に向けて組織体制を強化した。</p> <p>○H23~H25の工事着工件数:90戸</p> <p>◆各市町村の取組みを連携させる必要がある。</p>	

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		<p>【指標】花き栽培面積 (H20園芸年度:24.8ha) (H23園芸年度:20ha) 野菜(ニラ)栽培面積 (H23園芸年度:1.4ha)</p> <p>【目標(H27)】 花き栽培面積 15ha 野菜栽培面積 6ha</p> <p>【H26到達点】 花き栽培面積 18ha 野菜栽培面積 3ha</p>
・新規の森の工場:3地区(6月末予定)		<p>【指標】森の工場の木材生産量 (H22 13,871m³)</p> <p>【目標(H27)】 20,000m³</p> <p>【H26到達点】 18,000m³</p>
		<p>【指標】 「四万十の家」着工戸数</p> <p>【目標(H27)】 30戸</p> <p>【H26到達点】 25戸</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>11 町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業</p> <p>《大月町》</p> <p>町内の最高級のウバメガシや山林資源を活用して、古くから行われていた土佐備長炭の復活など、製炭の産業化を目指す。</p> <p>【大月町備長炭生産組合】</p>	<p>○H23、H24産業振興総合補助金を活用し、生産窯を6基設置(H23:2基、H24:4基)。町単独補助金を活用し設置した窯1基と合わせ、計7基(H26.3月末時点)。</p> <p>○8名が備長炭生産に従事(H26.3月末時点)。</p> <p>○H25:出荷量 79,800kg(H26.3月末時点)。</p> <p>○室戸市での研修を延べ11名が受講。</p> <p>◆収益の多様化、販売チャネルの多角化。</p> <p>◆当面の自主財源不足。(手数料収入で運営可能となるためにも生産規模拡大が理想)</p> <p>◆原木の安定供給のため、契約山林と林業者の分散が必要。</p> <p>◆生産量の増と質の向上が必要。</p>	<p>・H26県ふるさと雇用事業を活用</p>
<p>12 地域活性化のための魚加工・販売体制の強化・推進</p> <p>《宿毛市》</p> <p>宿毛市片島地区に施設を整備し、水産加工物製造・販売を展開することで、漁業者所得向上や、雇用創出、地産地消・外商を進めていく。</p> <p>【すくも湾漁業協同組合】</p>	<p>○H21産業振興総合補助金を活用し、加工施設・冷凍冷蔵施設・保冷運搬車両を整備、同年10月から製造・販売スタート。</p> <p>○売上は、H22:17,552千円、H23:27,602千円、H24:27,791千円、H25:32,651千円と増加傾向。</p> <p>○鮮魚フィレの生産量は、H22:12t、H23:20t、H24:13t、H25:20t。冷凍キビナゴの生産量は、H22:3.6t、H23:約7t、H24:4.1トン、H25:1.7tと漁獲量により上下。</p> <p>◆原魚の安定調達による作業効率の向上、増産、販路拡大</p> <p>◆収益状況の明確化</p> <p>◆利益率の高い商品の開発及び販路開拓</p>	<p>・6月から日々の「生産高一仕入額」について漁協の関係職員が情報共有できるようにした(目標60千円/日)。</p> <p>・H26県ふるさと雇用事業を活用</p>
<p>13 宿毛湾を中心とする地域水産物の流通・加工体制の推進</p> <p>《宿毛市》</p> <p>民間事業者による宿毛湾の魚の利用促進・消費拡大及び地元雇用の創出を目指す。</p> <p>【株式会社ピアサーティー】</p>	<p>○H22産業振興総合補助金を活用し、施設整備。</p> <p>○売上高・・・H22:1.4億円、H23:1.6億円、H24:1.8億円、H25:2.0億円</p> <p>○宿毛湾産の魚使用量・・・H23:60,821kg、H24:51,010kg、H25:66,058kg</p> <p>○施設の規模拡大により衛生管理面の向上とあわせて、贈答用商品の製造や刺身用食材の提供が可能となった。</p> <p>◆雇用の確保</p> <p>◆冷凍技術の確立</p>	<p>・自社レストランでの「春の鯛祭」及び「鯉祭り」の開催(市内事業者(沖の島水産)と連携した宿毛市産魚類のPR)</p>
<p>14 民間企業との連携による水産物の販路拡大</p> <p>《宿毛市・大月町》</p> <p>漁協・民間会社連携による前処理加工施設を漁協市場付近に整備し、地元水産物の付加価値向上と販路拡大に向けた体制づくりに取り組む。</p> <p>【すくも湾漁業協同組合】</p>	<p>○H22産業振興総合補助金を活用し、加工施設等を整備。H23.4月下旬から稼働。</p> <p>○アジフィレほかキビナゴやイワシ類を使用した惣菜を製造し、首都圏等の飲食企業へ出荷中。加工方法の改良や原魚、メニューの多様化を図るなどしてH24は前年度より原魚仕入れ、製造、出荷とも大幅増。</p> <p>○H25の原魚仕入れ高は前年度よりも若干少なく推移。今後、キビナゴ以外の新たな商品開発が望まれる。</p> <p>○H26年3月末現在7名の雇用。</p> <p>○県食品高度衛生管理手法認定→H26.1認定取得。</p> <p>◆売上拡大</p>	<p>・県外養殖ブリ加工場視察研修*水産物地産外商推進事業費補助金活用</p> <p>・ブリ加工品の検査(菌検査、残留抗生剤、放射能検査)*水産物地産外商推進事業費補助金活用</p>
<p>15 宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業</p> <p>《宿毛市》</p> <p>ブリやカツオ等、宿毛近海で獲れる魚を活用し、消費者ニーズに基づく商品開発・生産体制充実・販売促進に取り組むことで、地域ブランド確立および原材料そのものの付加価値化を図る。</p> <p>【株式会社 沖の島水産】</p>	<p>○県「弥太郎!商人塾」に参加(H22、23、25)。</p> <p>○県ステップアップ事業による冷凍施設整備、パッケージデザイン、販売促進の実施。</p> <p>○県産業振興総合補助金活用による加工施設整備(H25)</p> <p>○加工品売上高・・・H22:800万円、H23:1,929万円、H24:4,209万円、H25:5,373万円(見込み)</p> <p>◆販路の拡大。</p> <p>◆消費者ニーズに応じた新商品の開発。</p>	<p>・県「弥太郎!商人塾」に参加</p> <p>・加工施設完成(6/2)</p> <p>・地域人づくり事業の活用</p> <p>・県外催事等への出店による販促活動</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・H26県ふるさと雇用事業で事務局1名雇用	・生産量:14.2t(H26年4月～5月) ・販売額:4,916千円(H26年4月～5月) ・山主及び山師への還元:1,369千円(H26年4月～5月)	【指標】 備長炭販売量・生産窯・生産者 【目標(H27)】 販売量 240t 生産窯 20基 生産者 20人 【H26到達点】 販売量 129t 生産窯 7基 生産者 8人
・H26県ふるさと雇用事業で4名雇用		【指標】 冷凍フィレ、冷凍キビナゴ生産量(H22) (冷凍フィレ12.3t) (冷凍キビナゴ3.6t) 【目標(H27)】 冷凍フィレ 30t 冷凍キビナゴ 15t 【H26到達点】 冷凍フィレ 36.6t 冷凍キビナゴ 10t
・売上金額 H26.4 21,599,470円(前年同月比122%) H26.5 18,145,992円(前年同月比116%) ・宿毛湾産の魚使用量 H26.4 5,250kg(前年同月比82%) H26.5 4,775kg(前年同月比105%)		【指標】 年間売上(H22:1.4億円) 【目標(H27)】 2.7億円 【H26到達点】 2.2億円
・雇用の創出 職員:1名(5/12～6/30) パート:2名(5/7～)、1名(6/6～)		【指標】 原魚供給高 【目標(H27)】 1.19億円 【H26到達点】 1.19億円
・営業職1名及び加工作業員1名の雇用 ・取引開始件数 12件(4～6月)		【指標】 加工品売上高(H22:800万円) 【目標(H27)】 6,867万円 【H26到達点】 6,006万円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>16 サメ漁業の復活に向けた取組</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>サメ肉の加工品の開発と販路開拓により、サメ漁業が成立する浜値で取引される仕組みを構築するとともに、サメによる漁業被害の軽減を図る。</p> <p>【土佐清水市水産振興協議会】</p>	<p>○漁獲されたサメを安定した価格で買い上げ、加工商品とすることで、サメ漁業復活のきっかけづくりとなった。</p> <p>○H22産業振興総合補助金を活用し、商品開発を継続。サメ肉で主にペットフードを開発して、従来販売されている商品に比べ、宗田節加工場で加工することによってアンモニア臭が抑えられ、ペットの嗜好性が非常に高いものに仕上がった。</p> <p>○ペットフードについて、大手ペット用品業者との商談の結果、商品開発(ネーミング及びパッケージ)・販売の協力が得られ、H23年9月の展示・商談会以降、約6000パックの注文があり、今後の販売増に期待が持てる。</p> <p>○製造ラインにおける様々な課題については、解決に向けて一定目途がたった。</p> <p>・H24年度サメ漁獲量:約1t</p> <p>◆ペットフードの安定した販売量の確保</p> <p>◆ペットフード販売数の伸び悩み原因の解明</p> <p>◆取組全体のコーディネータ役の育成</p> <p>◆これまでのペットフード加工業者がH25年に廃業したため、新たな加工業者の確保</p>	
<p>17 宗田節の販路拡大に向けた取組</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>宗田節加工業は、蕎麦屋等の業務用需要に支えられてきたが、食の多様化等により需要が減少しているため、一般消費者を直接ターゲットにした商品開発や宗田節のPR等を展開し、消費の拡大を図る。</p> <p>【宗田節をもっと知ってもらいたい委員会、土佐清水市】</p>	<p>○宗田節をもっと知ってもらいたい委員会(H22設立)が、県内を中心とした宗田節のPR活動を展開し、宗田節の認知度が一定向上した。</p> <p>○(株)土佐清水元気プロジェクトが新商品の開発に取り組み、H23年度に4品目、H24年度に3品目が完成し、販売を開始した。</p> <p>○H24新商品売上実績:887万円(7アイテム)</p> <p>○H25新商品売上実績:1,650万円(7アイテム)</p> <p>◆宗田節の認知度が一定向上、新商品の販売も順調に伸びてきており、今後もPR活動を継続するとともに新商品の更なる販路開拓が必要</p>	<p>・宗田節をもっと知ってもらいたい委員会開催(1回)</p> <p>・ものづくり地産地消・外商センターとの連携による生産工程の見直し検討に着手</p> <p>・食育授業の実施(1回)</p> <p>・県外催事への参加(1回)</p> <p>・県内量販店での試食販売(6回)</p>
<p>18 “川辺の暮らし”を支える豊かな四万十川再生プラン</p> <p>《四万十市》</p> <p>四万十川の恵みを支える汽水域を中心とした河川環境や漁業資源を継続的にモニタリングしながら、流域住民が四万十川の漁業資源を持続的に利用できるようマネジメントできる枠組みを作っていく。あわせて、アユやアオノリをはじめ、四万十川の恵みを地域外に付加価値を付けて売り出す方策を探っていく、“川辺の暮らし”が永続的に営まれるようなかつての豊かな四万十川の再生を目指す。</p> <p>【四万十市、四万十市高知大学連携事業推進会議、四万十川下流漁業協同組合】</p>	<p>○アユやスジアオノリの枯渇原因については、多くの要因が言われてきたが、四万十市と高知大学が連携して科学的な原因究明に乗り出し、「汽水域シンポジウム」や連携事業の報告会を介して、関係機関や地域住民と情報交換を行う事で、徐々にではあるが原因究明や資源復活に向けての協力体制が出来つつある。</p> <p>○H21年より試験的にはじめた下流漁協のアオノリやアオサノリの製造・販売事業について、H23年10月に6次産業化法に基づく総合化事業計画の二次認定を受け、H24年8月には補助金も交付されたことにより、販路開拓や商品開発についても、一定目途が立った。</p> <p>○H25年度のスジアオノリの生育状況が非常に良く、豊漁となった(約9t)。豊漁の要因としては海水温の低下する時期が早かったことがあげられた。</p> <p>◆アユやスジアオノリの天然資源が長期低落傾向にあり、その枯渇原因の究明と有効な対策が急務である。</p> <p>◆漁業関係者との情報共有の強化を図る必要がある。</p>	
<p>19 キビナゴ加工商品の生産体制強化</p> <p>《大月町》</p> <p>大月町の地域資源の一つであるキビナゴを活用した商品加工体制の基盤強化を図るとともに、大月町道の駅等との連携による県内外の販売促進活動を行う。このことにより、キビナゴの消費拡大、雇用拡大、連携先の売上増等につなげる。</p> <p>【八重丸水産】</p>	<p>○産業振興総合補助金を活用した加工場の改修、攪拌機整備(H23)、県外展示会への出展(H24、東京・大阪)</p> <p>○商品開発:ゆず味(H23)、塩麹味(H24)、化学調味料不使用タイプ(醤油、塩麹)(H25)</p> <p>○販促資材の充実(H24)</p> <p>○きびなごケンピ販売袋数H24:118千袋/H25:133千袋</p> <p>○平成23年度高知県地場産業奨励賞受賞</p> <p>○ファストフィッシュ商品に認定(H24)</p> <p>○パッケージリニューアル、45g(プレーン、塩麹)、100g(プレーン)(H24)</p> <p>◆キビナゴ原魚は、天然水産物のため収量が安定しない</p> <p>◆事業規模が大きくなり、経理・管理業務の増大</p> <p>◆中期的な経営計画、方針の策定</p>	<p>・商談会への出展(1回)</p> <p>・新商品の開発</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 安定したサメ漁獲量 (H22:1.4t) 【目標(H27)】 10t 【H26到達点】 1.5t
		【指標】 宗田節新製品の売上 【目標(H27)】 2,700万円 【H26到達点】 2,388万円
		【指標】 スジアオノリ、アオサノリの漁協 販売金額 (H22:49万円) 【目標(H27)】 625万円 【H26到達点】 350万円
・8事業者との新規取引開始 ・新商品2種類の発売	・H26販売袋数4-5月 販売袋数18,378袋(前年比77%)	【指標】 きびなごケンピの販売袋数 (H22:5.3万袋) 【目標(H27)】 14.2万袋 【H26到達点】 13.7万袋

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>20 大月町種苗生産施設活用による県内産養殖種苗のシェア拡大</p> <p>《大月町》</p> <p>大月町種苗生産施設の県内民間事業者による活用を図り、養殖用種苗としてのマダイ・シマアジの増産による市場シェアの拡大、カンパチ等新魚種の生産技術確立によるビジネスチャンスの拡大を目指す。</p> <p>【大月町、(株)山崎技研】</p>	<p>○H24.4月～ 大月町種苗生産施設貸付契約締結</p> <p>○H24産業振興総合補助金を活用し種苗の海上育成用施設整備(H24.9月)</p> <p>○雇用の創出6名(H25.3月現在)</p> <p>○H24.4月～ 放流用種苗の生産</p> <p>○H24.11月～ マダイの生産開始</p> <p>○H24.11月～ シマアジ種苗の生産</p> <p>○H26.1月～ カンパチ受精卵の採卵に成功</p> <p>◆マダイ、シマアジ種苗の安定生産と魚病対策</p> <p>◆カンパチ人工採卵技術の確立及び孵化後の生残率の向上</p>	<p>・カンパチの種苗生産試験(H26.1.4～)</p>
<p>21 直七の生産、加工、販売の促進</p> <p>《宿毛市》</p> <p>地元柑橘の一種である直七をはじめとした地域農産物の加工・販売を推進することで、雇用創出、農家所得向上、地域活性化を図る。</p> <p>【直七生産組合、直七の里(株)、直七酒販(株)】</p>	<p>○生産組合の設立(H21)</p> <p>○搾汁施設等の整備(H22:産業振興総合補助金の活用)</p> <p>○新商品の開発、商品パッケージの見直し(H22～23)</p> <p>○すくも湾漁協と連携し、「直七マダイ」の開発(H24～25)</p> <p>○直七生産量(果実ベース)</p> <p>・H20:13t→H21:10t→H22:21t→H23:36t→H24:66t→H25:103t</p> <p>◆生産拡大に向けた取組(新商品の開発、販路の拡大、商品の加工)</p>	<p>・ふるさと雇用再生特別基金事業の活用</p> <p>・地場産品商談会(5/20)への参加</p> <p>・CGCグループ関西地区会長・社長会での商品提案</p> <p>・料理マスターズブランド認定コンテスト(主催:辻調理師専門学校)(6/8)への参加(出席飲食店関係者へのPR)</p>
<p>22 地域の素材を活用した「おいしいもの」づくり</p> <p>《宿毛市》</p> <p>地域の特産である柑橘類や焼酎等を活用した新たなスイーツづくりをはじめ、宿毛湾で獲れた魚や牛肉、豚肉を活用した商品開発や生産拡大のための施設整備を行うことにより、地域生産者の所得向上を目指す。</p> <p>【幡多美味工房、地域事業者等】</p>	<p>○商品製造施設整備(【厚生労働省】H23:創業支援助成金)</p> <p>○新商品の開発(H23～H25)</p> <p>○販路の開拓(H23～H25)</p> <p>◆販路拡大</p>	
<p>23 土佐清水市地域再生計画(大岐地区等の開発計画)</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>地域資源としての「食」の再生・活性化を官民協働のもと、地域が一体となって実施するとともに、大岐・三岐地区開発による施設整備等への取組と併せて、雇用の創出と地域の再生を推進する。</p> <p>【土佐食(株)、土佐清水市】</p>	<p>○販売額及び雇用について、順調(十分)に成果を上げている。(～H25)</p> <p>○産業振興総合補助金を活用し、機器等を導入したことで、ペットフード安全法改正に適応でき、かつ新商品開発も可能となった。(H22～25)</p> <p>◆売上全体の1割程度に留まっている食品部門の販売拡大。</p>	<p>・展示会等への参加:3回</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・カンパチの採卵量 約10,048千粒 (沖出し尾数は約54千尾)		【指標】 マダイ、シマアジ種苗生産尾数 【目標(H27)】 マダイ 100万尾 シマアジ 50万尾 【H26到達点】 マダイ 40万尾 シマアジ 30万尾
・営業職員1名雇用(継続) ・1社と取引開始(地場産品商談会) ・CGCグループ加盟店舗での取引決定		【指標】 直七果実生産量 (H22:21t) 【目標(H27)】 200t 【H26到達点】 150t
		【指標】 ・新商品の開発 ・取引先数(H24:3社) 【目標(H27)】 ・8アイテム ・5社 【H26到達点】 ・17アイテム ・4社
・食品の取引店舗数(5月末累計):182店舗 [四国内約8割、四国外約2割] ・展示会等での商談件数:14件	・雇用者全体(6月末累計):196人 ・水産物の活用(5月末累計):約400t	【指標】 雇用者(臨時・パートを含む) (H19:124人) (H22:170人) 地元水産物の活用 (H19:2,079t) (H22:2,580t) 売上額 (H22:13.6億円) 【目標(H27)】 200人、2,800t、15億円 【H26到達点】 195人、3,500t、17億円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>24 地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>大岐地区に整備される加工施設に生産者が参画できる仕組みづくりや加工された商品を市内外の市場に流通及び販売する仕組みを構築する。また、加工品の一般消費者向けの個別配送、海外への販路拡大など、地域資源を活かした経済の活性化を推進する。</p> <p>【(株)土佐清水元気プロジェクト、土佐清水市】</p>	<p>○産業振興総合補助金を活用し、農産物の集出荷システムを構築。(H21~25)</p> <p>○特産品の開発と統一ブランド作りでは、約30種類の商品を販売。(H22~25)</p> <p>○産業振興センター助成事業(農商工連携事業化支援事業)を活用し、商品開発。6種類の商品化が実現。(H23~25)</p> <p>○産業振興センター助成事業(経営革新計画支援事業)を活用し、OEM生産体制づくり並びに商品開発。18種類の商品化が実現。(H24~25)</p> <p>○『土佐の清水さば漁師漬け』が日本経済新聞NIKKEIプラス1「何でもランキング」で“全国1位”を獲得。売上額がH25/H24比約3倍増。(H25)</p> <p>◆売れ筋商品の(開発を含めた)販売拡大。</p> <p>◆集荷農産物の品質向上。</p> <p>◆加工用農産物の契約栽培の推進。</p> <p>◆付加価値農産物の生産。</p> <p>◆工房及び冷凍施設の稼働効率の向上、水産振興策と連動した加工体制の構築。</p>	<p>・OEM生産事業継続(H24~)。</p> <p>・県内外催事等での販促PR活動。(県内:5回、東京都:2回)</p> <p>・商談会等への参加:1回</p> <p>・市内外イベントにて出店。(市内:1回、市外:1回)</p>
<p>25 土佐清水発!宗田節が良くでる加工施設整備・販路拡大事業</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>宗田節関連商品の製造力の向上及び衛生管理体制の充実により、販売・販路の拡大を図るとともに、新たな商品開発等へも取り組みながら、宗田節生産者の所得向上及び地域の安定した雇用の創出を目指す。</p> <p>【(株)ウェルカムジョン万カンパニー】</p>	<p>○平成22年7月の立ち上げ以降、『宗田節』を使った加工品を製造・販売。</p> <p>『だしが良くでる宗田節』を主力に、展示会・商談会等へも積極的に参加し、販路拡大にも取り組んでいる。(~H25)</p> <p>◆製造体制の強化・充実。</p> <p>◆販路拡大及び販売促進。</p> <p>◆商品開発・改良。</p>	<p>・商談会等への参加:3回</p> <p>・県内催事での販促PR活動。(県内:1回)</p>
<p>26 地元農産物を使った商品開発事業</p> <p>《四万十市》</p> <p>農業と製造業が連携し、相互のノウハウを活かした新商品を開発・販売することにより、地産地消・外商および地域の活性化を推進する。</p> <p>【四万十市】</p>	<p>○商品開発・販売(H22~) 市農商工連携支援及び県ステップアップ事業により、事業者の要望やレベルに応じた支援の結果、5プロジェクト、12アイテム24種類(H25年度末時点)の新商品が完成・販売中。それぞれの販促活動により、都市部の販路獲得という成果も得られている。</p> <p>○実績から得られた経験を活かした新たな商品開発のほか、各プロジェクト事業者間相互の情報交換やアドバイス、ネットワークも構築されつつある。</p> <p>◆新規農商工連携プロジェクトの掘り起こし</p> <p>◆商品PRと販路拡大(地域内外への販売戦略)</p> <p>◆生産体制の確立(加工設備の高度化検討、原材料確保のための連携強化)</p>	
<p>27 「いちじょこさん市場」を拠点とした中心市街地活性化の推進</p> <p>《四万十市》</p> <p>四万十市一条通商店街のスーパー跡地を利用して整備された「いちじょこさん市場」を拠点に、地元の素材を活用した食育の啓発・地産地消の交流拠点として、商店街の活性化を図る。</p> <p>【まちづくり四万十(株)】</p>	<p>○四万十市中心市街地活性化の一環として、地産地消を推進する「食育プラザ」開店(H21.9~)</p> <p>○「中小企業基盤整備機構」の支援を受け、集荷・販売・経営全般を改善(H21~H23)</p> <p>○H23産業振興総合補助金を活用し、店舗内外装の全面改修。</p> <p>総菜部門を追加し、施設名称を「いちじょこさん市場」に変更してH23.9.2リニューアルオープン。リニューアルオープン後は、売上額は順調に推移。</p> <p>○集荷業務は約70名に対応しており、定着してきている。</p> <p>○H23にふるさと雇用事業で雇用した2名をH24から正職員とした。</p> <p>◆目標販売額の達成、集荷・宅配業務の継続、催事、交流スペースの有効活用</p>	

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・新規取引業者数(5月末累計):4社 [全体:161社(県内78社、県外83社)] ・OEM生産商品:12アイテム ・商談会等での商談件数:3件 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用者全体(5月末累計):56人 (前年度と同じ) ・農産物等の活用(5月末累計):約18t (前年度同期比約86%) ・売上額全体(5月末累計):約0.2億円 (前年度同期比約100%) 	<p>【指標】雇用者(臨時・パートを含む) (H22:55人) 地元農産物等の活用 (H22:86t) 売上額 (H22:1.18億円)</p> <p>【目標(H27)】 70人、100t、2.5億円</p> <p>【H26到達点】 56人、85t、2億円</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・商談会等での商談件数:2件 	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高(5月末累計):約14,400千円 (前年同期比約96%) (前々年同期比約204%) 	<p>【指標】売上高 (H24:22,000千円)</p> <p>【目標(H27)】 36,000千円</p> <p>【H26到達点】 30,000千円</p>
		<p>【指標】新商品の開発 (H22:7アイテム)</p> <p>【目標(H27)】 15アイテム</p> <p>【H26到達点】 13アイテム</p>
		<p>【指標】雇用者数 (H22:常勤2名) (H22:パート5名) 売上額 (H24:44,709千円)</p> <p>【目標(H27)】 常勤 3名 パート 7名 売上額 60,000千円</p> <p>【H26到達点】 常勤 3名 パート 8名 売上額 50,000千円</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>28 栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト</p> <p>《四万十市》</p> <p>西土佐地区の栗園再生に向け、「より高く、より多く売るしくみ」と「栽培しやすい環境づくり」を平行して取り組むことで、地域内外を巻き込んだ新しい地域ビジネスを目指す。</p> <p>【(株)しまんと美野里、四万十川を良くする会、四万十市、西土佐商工会】</p>	<p>○H21「(株)しまんと美野里」設立。H22産業振興総合補助金を活用し、加工施設、氷感庫(凍らせない冷凍保存庫)を導入し、H23.1月より稼働開始</p> <p>○栗栽培支援として、H23.9月に支援組織「四万十川を良くする会」を設立</p> <p>○H24仕入:8.9t、加工:4.2t、H25仕入:7.1t、加工:3.1t</p> <p>○H24産振アドバイザー活用により、加工・在庫管理を見直し</p> <p>◆栗の確保(連年の不作と栽培者の高齢化による荒廃化)</p> <p>◆全体計画の策定と、受注～原料確保～加工～販売一連のスケジュール管理</p>	<p>・起業支援型雇用、ふるさと雇用活用</p> <p>・小規模事業者持続化補助事業(全国商工会連合会)(5/2付採択、総事業費75万、補助率2/3)</p>
<p>29 四万十牛の商品開発・販売</p> <p>《四万十市》</p> <p>四万十市西土佐地域の畜産家・農家・加工業者が連携し、四万十川にこだわった加工商品を開発・製造・販売することで、地域内外での売上を拡大する。</p> <p>【横山精肉、西土佐中央牧場、西土佐ふるさと市組合】</p>	<p>○新商品サービス開発支援事業(全国商工会連合会)により、新分野進出に向けた経営計画を策定(H25)、商品候補開発:10商品(H25)</p> <p>◆計画に基づく事業スケジュールの確立と実践(新分野挑戦にあたっての設備投資に対する有利な補助制度の活用検討・申請・採択に向けた迅速な対応)</p>	<p>・直営店舗のオープンに向けたアドバイザーとの協議(6/16)</p>
<p>30 西土佐拠点ビジネス推進事業(売り出せ西土佐プロジェクト)</p> <p>《四万十市》</p> <p>各種団体や地域産業従事者など多様な人材・組織が連携し、地域産品・加工品の開発・販売、体験交流推進、情報発信、施設整備等を行い、幡多地域の北の玄関口としての総合発信拠点を作り、地域の活性化を目指す。</p> <p>【四万十市、西土佐商工会、地域事業者等】</p>	<p>○H24道の駅基本計画策定</p> <p>○H25道の駅実施設計、用地買収 地域事業者を含めた検討会を重ねH24基本計画、H25実施設計、用地買収。</p> <p>○新商品開発数:H24:5商品、H25:7商品(H25末累計:18商品)</p> <p>拠点施設開店を見据え、地域事業者それぞれが商品開発に着手 (41℃関連商品が増えている)</p> <p>◆運営体制の構築</p>	<p>・ふるさと雇用2名(H26.4.1～)</p> <p>・全国商工会連合会事業(小規模事業者全国展開支援事業)(5/26採択)</p>
<p>31 拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業)</p> <p>《大月町》</p> <p>ふれあいパーク大月を拠点に、特色ある地域資源を活用した拠点ビジネスモデルの構築に向けた事業展開を図る。</p> <p>【(一財)大月町ふるさと振興公社】</p>	<p>○H21、22と産業振興総合補助金を活用し、生鮮食品の鮮度保持用施設の改修、インターネット通販、カタログ販売の仕組みづくりなどにより、販促活動を充実・強化。大手百貨店や生協など県外での販売も拡大。所得向上及び道の駅のにぎわいづくりにつながっている。</p> <p>○販路拡大・販売促進(H21～24)の結果、ひがしやま関連商品、へらずし、塩麴漬など、売れ筋商品が出てきている。</p> <p>○外商拡大対策として、町内の他事業者と「大月まるごと販売プロジェクト」を立ち上げ、連携した販売促進を開始。</p> <p>○目標に対する実績 (H23:1.77億円)(H24:1.81億円)(H25:1.82億円)</p> <p>○H25、町委託の移住支援事業において、7組18名の移住支援、相談は41件</p> <p>◆売れ筋商品の生産体制の充実(地域での仕組みづくり、加工場の充実など)</p> <p>◆将来を見据えた、販売戦略づくり</p> <p>◆道の駅のにぎわいづくり継続</p>	<p>・移住促進事業の委託(委託料:4,114千円)</p> <p>・プロパースタッフをサポートする臨時職員1名の雇用</p>
<p>32 苺を核とした6次産業化</p> <p>《大月町》</p> <p>大月町の新しい加工品として注目されている苺氷りの販売拡大および新商品開発により、苺を大月町の新しい特産品として育成し、生産～加工～販売の一貫体制の構築を目指す。</p> <p>【農業生産法人 苺氷り本舗株式会社】</p>	<p>○H22産振総合補助金を活用し、販促活動に取り組んだ結果、販売店舗数も120店舗超、雑誌やメディアでの露出機会も多くなるなど、地域を代表する企業となりつつある。</p> <p>○ご当地氷りの開発(シークワサー、みかん、ゆず、ポイセンベリー)(H22-24)</p> <p>○3種類のハーブティーの商品化(H23)</p> <p>○OEM商品、抹茶氷りの商品化(H24)</p> <p>○H24苺氷り販売4,722万円、その他商品販売355万円、生鮮1,071万円 計6,149万円</p> <p>○H25苺氷り販売5,702万円、その他商品販売671万円、生鮮759万円 計7,133万円</p> <p>◆苺氷りの販路開拓</p> <p>◆事務所、冷凍施設等の移転</p> <p>◆生産施設の拡大</p>	<p>・販路開拓のための営業</p> <p>・イベント販売(6イベント)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 栗加工品製造量(H22:1.5t) 原材料(生栗)の仕入量(H22:2.5t) 【目標(H27)】 製造8t、仕入12t 【H26到達点】 製造6t、仕入10t
		【指標】 新商品売上高 【目標(H27)】 6,000千円 【H26到達点】 (計画策定・着手)
		【指標】 商品数 (H22:6商品) 雇用者数 (H22:パート2人) 【目標(H27)】 14商品 正規2名+α 【H26到達点】 21商品 正規2名
・移住相談員1名の雇用		【指標】 ふれあいパーク大月売上額 (H19:1.38億円) (H22:1.69億円) 【目標(H27)】 2.5億円 【H26到達点】 2.05億円
・20件の新規開拓		【指標】 苺氷り販売 (H22:4,409万円) その他商品販売 (H22:1.2万円) 【目標(H27)】 苺氷り 7,000万円 その他 760万円 【H26到達点】 苺氷り 6,350万円 その他 715万円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>33 月光桜からはじまる「牧野富太郎のみち」づくり</p> <p>《大月町》</p> <p>地域資源のひとつである牧野富太郎の足跡を活かし、観光振興を図るとともに、牧野富太郎や植物に関連した商品開発に取り組み、モノづくりによる起業や地域活性化を目指す。</p> <p>【大月町アウトソーシング研究会、四万十かいどう推進協議会大月支部】</p>	<p>○商品開発(コースターやクッキー)や展示会参加等の販路拡大(H23)</p> <p>○各種観光イベントの実施(H23)</p> <p>○緊急雇用事業を活用した月光桜周辺整備やイベントの実施(H24)</p> <p>○H24実績 観光客受入数:707名、商品数:24アイテム、販売金額:約139万円</p> <p>○H25実績 観光客受入数:253名、商品数:24アイテム、販売金額:約129万円</p> <p>◆商品づくりの方向性の検討(通年売れる商品づくりと既存商品のブラッシュアップ)</p> <p>◆受け入れ側の人づくり、人集め</p> <p>◆地域イベントとしての定着</p> <p>◆資金の確保については全体にわたる課題</p>	<p>・花街道推進支援事業費補助金(840,000円)</p> <p>・イベントの実施(夜桜音楽会、ウォーキング、花街道)</p>
<p>34 黒潮印の商品開発</p> <p>《黒潮町》</p> <p>天日塩、黒砂糖など、黒潮町の安全で質の高い基本調味料と地域資源とを組み合わせることによって、付加価値の高い農林水産加工商品を開発する。また遊休農地を活用したサトウキビ等の栽培、企業への安定供給や加工による商品化などを進め、地域の雇用の場の創出と所得の向上を図る。</p> <p>【黒潮町、株式会社黒潮町缶詰製作所】</p>	<p>○24年度に開始した町単事業の産業振興推進総合支援事業を継続実施、生産者の支援策を講じた。</p> <p>○懸案であった法人化については、防災関連新産業創造事業を実施する第三セクターの創立にあわせ機能継承という形で引き継ぐこととなった。</p> <p><H25年度実績></p> <p>・売上:給食への食材提供やアイスクリーム等のアイテム数の増加により、約16,000千円(前年度約12,000千円)</p> <p>・栽培面積:354a(うち特産協栽培分94a)、収穫量(原木17,064kg(町全体:85,703kg)、糖1,877kg(町全体:9,427kg))。</p> <p>・体験者数:搾汁等の体験者37人(2小学校)。</p> <p>◆黒潮印のブランド認証事業については、応募が少数であったことなどを踏まえ、開催を見合わせた。</p> <p>◆これまでの商品の見直しと生産体制の抜本的修正</p> <p>◆より効率的な生産体制と設備の充実</p> <p>◆食品加工に対する専門知識の習得</p> <p>◆運営組織の強化(人材育成)</p> <p>◆獲得利益率の高い販路の開拓</p>	<p>・つけもの、黒糖を給食センターへ供給継続</p>
<p>35 カツオ文化のまちづくり事業</p> <p>《黒潮町》</p> <p>日本一のカツオ漁獲高を誇るカツオ一本釣り船団を有する黒潮町佐賀地域において、カツオを使った漁師町ならではの味の提供、新商品開発、PR等の取組を進めることによって、「カツオ文化のまち」としてのブランド化を図り、所得の向上につなげる。</p> <p>【黒潮町商工会、黒潮町、高知県漁協】</p>	<p>○カツオ新商品の開発およびPR強化(H21~)</p> <p>○マリンエコラベル認証取得(H23)</p> <p>○黒潮一番館の施設改修(H22)および通年営業化(H23.3~)</p> <p>○水揚奨励交付金制度創設(H24.4~)、新荷捌・鮮度維持システムの導入(H24.4~)</p> <p>○“ぐるなび”を活用した飲食店へのPR</p> <p>○県産業振興総合補助金により商品開発・施設拡充を、水産関連事業により活餌支援・水揚増支援・PR強化等に取り組んだ結果、コンビニでのタタキ贈答セットやグルメサイト掲載、黒潮一番館通年営業化等、「カツオのまち土佐佐賀」の認知度向上に向け着実に進んでいる。</p> <p>○交流人口:(H23)16,148人、(H24)18,061人、(H25)22,271人</p> <p>◆黒潮一番館のさらなる活用方法及び佐賀みちの駅との連携</p> <p>◆もどりカツオ祭の規模保持・継続開催(H25:楽しまんと!はた博関連イベントとして開催)</p> <p>◆「日戻りカツオ」の活用方法(観光との連携)</p>	<p>・黒潮一番館の休館日(火曜日)を活用した地域特産品の販売市(びりびり市)の継続開催(4/2~)</p> <p>・道の駅なぶら土佐佐賀との小鉢商品の取引開始(4月14日オープンより)</p>
<p>36 佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進</p> <p>《黒潮町》</p> <p>地元の魚介類や農産物を使ったレストランや、農林水産物加工品の直販、幡多地域の観光などの情報発信機能を有する施設を黒潮町佐賀地区に整備し、地域が主体的に運営することで、地域の魅力の発掘・発信や消費の拡大、交流人口の拡大を図る。</p> <p>【黒潮町、株式会社なぶら土佐佐賀】</p>	<p>○用地買収完了(H24.5)</p> <p>○造成工事完成(H25.2)</p> <p>○施設詳細設計完了(H25.3)</p> <p>○運営体制の確立(運営主体の決定、株式会社定款案の承認)</p> <p>◆運営団体法人化に向けた取り組み</p> <p>◆黒潮一番館やビオスおおがた等、関係団体との連携・強化</p>	<p>・オープン(4/14)から無休で営業。(4月:17日間、5月:31日間)7月から第3火曜を定休日に、また9月及び1月のみ、第3月・火曜日を連休にする予定。</p> <p>・黒潮一番館との定期的な打合せ会(1回/月)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・観光客受け入れ 623人		【指標】 商品数(H22:19アイテム) 販売目標(H22:125万円) 観光客受入数(H22:444人) 【目標(H27)】 31アイテム 400万円 1,000人 【H26到達点】 27アイテム 150万円 800人
		【指標】 特産協売上 (H19 107万円) (H22 430万円) サトウキビ栽培面積 (H19 250a) (H22 270a) 体験者数 【目標(H27)】 売上 3,000万円 栽培面積 350a 体験者数 500人 【H26到達点】 売上 500万円 栽培面積 300a 体験者数 30人
・黒潮一番館の入込客数(5月末現在):2,957人(前年同期: 3,082人) ・びりびり市入場者(6月末現在):9回・延べ153人(前年同期:12 回・延べ約240人)		【指標】 交流人口 (H19:8,700人) (H22:12,000人) 【目標(H27)】 18,000人 【H26到達点】 17,000人
・売上:14,543,320円(4月:17日間:16,693人) 24,992,844円(5月:31日間:27,887人)		【指標】 雇用者数 売上額 【目標(H27)】 雇用者数 正規 5名 パート 14名 売上額 160,000千円 【H26到達点】 雇用者数 正規 5名 パート 14名 売上額 120,000千円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>37 水産物加工施設整備事業</p> <p>《黒潮町》</p> <p>これまで以上の衛生管理・品質管理が可能で、生産拡大が図れる水産物加工施設を整備することにより、さらなる販売拡大を目指す。それにより、地域内の漁業者の所得拡大を図る。あわせて、生産従事者の技術力向上、営業面での充実を行い、地域での雇用を拡大する。</p> <p>【(有)土佐佐賀産直出荷組合】</p>	<p>○産振ステップアップ補助金の活用(H24)</p> <p>○地域産業資源活用事業計画(経済産業省)に認定(H24.6)</p> <p>○新商品の開発(H24.12～きびなごペースト販売)</p> <p>○むらおこし特産品コンテスト(全国商工会連合会)にて、「審査員特別賞」を2年連続受賞(H24:きびなごフィレ、H25:きびなごペースト)</p> <p>○「調味料選手権2012～新定番調味料を探せ～」にて、きびなごフィレが「サラダ部門」入賞(H24)</p> <p>○取引業者数:(H23:40社、H24:60社、H25:70社)</p> <p>○雇用:(H23)正職員2名、非正規職員8名→(H24)正職員2名、非正規職員8名→(H25)正職員2名、非正規職員9名</p> <p>◆加工体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設新設・規模拡大 ・各種機器類の導入 	<p>・新施設整備に向けて検討会の開催(6月末現在:5回)うち、産振アドバイザー制度の活用(2回)</p>
<p>38 防災関連新産業創造事業</p> <p>《黒潮町》</p> <p>農林水産物等、地域産品を活用した防災関連食品の製造・販売体制を構築し、「地産」・「地消」・「外消」を図ることで、雇用機会の創出はもちろん、地域生産者の所得向上につなげていく。</p> <p>【黒潮町、株式会社黒潮町缶詰製作所】</p>		<p>・缶詰レシピ6種類完成</p> <p>・作業手順書、管理シートの作成</p> <p>・日本缶詰協会の基礎技術講習受講:2名(5月)</p>
<p>39 幡多広域における滞在型・体験型観光の推進</p> <p>《幡多地域全域》</p> <p>幡多地域におけるコーディネート組織として、質の高い体験プログラムづくりや人材育成、民泊など受入体制の充実強化、それらを活用した周遊ルートなど、商品造成、販売誘致促進を図り、幡多地域の滞在型・体験型観光の推進を目指す。</p> <p>【(一社)幡多広域観光協議会】</p>	<p>○H22～法人化及び旅行業取得。従来の教育旅行に加え一般客もターゲットに、商品の掘り起こしや磨き上げ、目指すべきビジョン・戦略づくり、人材育成、誘客活動等、地域観光のコア組織となるべく取り組んできた。</p> <p>○H25.1月に県職員を事務局長として受入、H25.3旅行業務取扱管理者資格を持つJTB職員を誘致受入専門監として雇用し事務局体制を強化(H25実績<H26.2末現在>・・・教育旅行:12団体972名、一般旅行:5,948名(うち団体旅行3団体、153名))</p> <p>◆教育旅行受入拡大及び一般旅行商品の磨き上げ、造成・販売の推進</p> <p>◆幡多地域観光キャンペーン開催後の誘致促進と幡多広域観光協議会を中心とした地域と一体となった観光振興推進体制の構築</p>	<p>・四国内のエージェント訪問販売を実施(58社)</p> <p>・ガイドブック概要版完成82施設に配布(10,000部)</p> <p>・ガイドブック完成357箇所配布(70,000部)</p> <p>・民泊研修の実施(四万十市:5箇所)</p> <p>・教育旅行誘致(下見3校)</p> <p>・旅行商品の造成</p>
<p>40 竜串観光再発見事業</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>地域産業の連携と地域が協働することで、観光客に地域をまるごと知ってもらい、地域住民と交流する施設や小動物等とふれ合える施設等整備の在り方、NPO竜串観光振興会が中心となって行っているサンゴ保全や観光メニューづくりなどのソフト事業について、地域住民や観光関連団体、市が連携しながら検討し、竜串観光の振興を図る。</p> <p>【土佐清水市、土佐清水市観光協会、NPO竜串観光振興会、竜串地区、竜串自然再生協議会】</p>	<p>○地元NPO竜串観光振興会を中心に、新たな観光メニューづくりや竜串地域の施設再検証、清掃活動、サンゴ保全、イベント開催、地元小学校の学習活動支援等、様々な活動に取り組んでいる。(～H26)</p> <p>○ステップアップ事業を活用し、竜串の観光資源の認知度と関心度のギャップ調査を実施。調査結果を基に、産業振興総合補助金の活用(～H25)及び市単独事業により、情報発信、認知度向上を図っている。(H22～H26)</p> <p>○H25年度開催の「はた博」をきっかけに、体験プログラムを12品目造成。(H25)</p> <p>◆観光客の減少。</p> <p>◆観光消費額の減少。</p> <p>◆人材不足。</p> <p>◆全体構想(将来ビジョン)の確立及び共有。</p>	<p>・足摺海洋館あり方検討委員会開催2回(4/16・5/17)</p> <p>・高知県観光拠点等整備事業費補助金(1,950千円)交付決定</p> <p>海のギャラリー改修(空調・照明・衛生設備改修)</p> <p>海の物産館ながしま改修(衛生設備改修)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 新規雇用 【目標(H27)】 5名 【H26到達点】 1名
		【指標】 売上高 【目標(H27)】 売上高 74,000千円 【H26到達点】 売上高 32,400千円
<ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラム(65→76)の造成 ・教育旅行の受入:3校(132名) ・四万十市の民泊19軒増(55軒→74軒) 		【指標】 ・教育旅行受入数 (H22:3,074人) ・一般旅行受入数 (H22:59人) 【目標(H27)】 ・教育旅行 4,000人 ・一般旅行 30,000人 【H26到達点】 ・教育旅行 1,000人 ・一般旅行 5,000人
		【指標】 入込客数 (H22:12万人) 【目標(H27)】 12.5万人 【H26到達点】 11.5万人

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>41 土佐清水まるごと戦略観光展開事業</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>観光産業を地域の戦略的産業と位置づけ、農業・漁業・商業等と連動した地域まるごと観光を推進するため、食・体・商を集約した海の交流拠点施設として「海の駅」を核に、観光ニーズに即応できるワンストップサービスを推進する。</p> <p>【(一社)土佐清水市観光協会、地域活動団体、土佐清水市】</p>	<p>○「海の駅あしずり」に土佐清水市観光協会事務局を配置。ジョン万次郎資料館もリニューアルオープンし、異業種が連携したイベント「海の元気まつり」の実施や、体験型観光の受入窓口となるなど、交流拠点として存在。その他、市内各地等での様々なイベントの開催、県内外への観光PR・誘致活動、個人観光客へのきめ細かな対応、体験型修学旅行の受入など、本市観光振興の中核として取り組んでいる。(～H25)</p> <p>◆地域の特性、資源を活かした体験型プログラムの造成。 ◆誘致・プロモーション活動の推進。 ◆観光客の減少。 ◆観光消費額の減少。 ◆人材不足。</p>	<p>・香港国際旅遊展(ITE2014)に「四国秘境、絶景絶美・瀬戸内」として出展。 〔6/12～13:業界日来場者12,308人(3.6%増)、6/14～15:一般日75,300人(2.8%増)〕</p>
<p>42 足摺・竜串を中心としたジオパークへの取り組みによる交流人口の拡大</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>足摺岬(ラバキビ花崗岩)、竜串・見残し(化石連痕)、唐人駄場(巨石群)等、日本でも貴重な地域資源(地質等)の『日本ジオパーク』の認証に向けた取組を進め、地域保全及び教育並びに交流人口の拡大につなげる。</p> <p>【土佐清水市、(仮称)足摺・竜串ジオパーク推進協議会】</p>	<p>○推進体制(組織)の構築へ向けた準備等。(H25)</p> <p>◆ジオパークに関する専門知識の不足(習得+専門員の雇用検討)。 ◆連携・協力体制の構築。 ◆推進体制(組織)の構築。 ◆受入態勢の整備(ソフト)。 ◆受入態勢の整備(ハード)。</p>	<p>・推進体制(組織)の構築 H26.4.1市産業振興課内にジオパーク推進係設置〔係長1名体制〕。 土佐清水ジオパーク推進準備会設立。推進準備会開催:1回 日本ジオパークネットワーク(JGN)準会員加盟。 専門員の雇用経費を予算化(市6月補正予算)。 視察研修等の実施:4回</p> <p>・JGN関連の会合への参加:3回</p> <p>・受入態勢の整備(ソフト) 講演会等の開催:1回</p>
<p>43 四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進</p> <p>《四万十市》</p> <p>四万十市内での滞在期間を延ばし、宿泊を促す「通過型観光からの脱却」と閑散期(秋・冬)にも観光客に訪れていただく通年型観光へ向けた取組及び観光客の情報収集などの拠点となる施設整備により、宿泊型観光の増加を図る。</p> <p>【四万十市観光振興連絡会議、奥四万十楽しまんとPT、四万十市】</p>	<p>○通過型観光からの脱却と閑散期(秋・冬)対策として秋に特化した宿泊を促すイベントの開催にあたり、これまで実施できていなかった飲食店組合及び旅館組合との連携を図ることができ、官民一体となった観光客受入体制の足場を築くことができた。 「四万十川周遊川バス」、「しまんと・あしずり号」運行による二次交通補強 ○サイクリングエイドステーションの設置により、自転車による観光客受入体制が整備できた。 ○あわせて、H26.3月に予土県境5市町による連携組織が発足したことや、埼玉県熊谷市、岐阜県多治見市とのアツイまち連携の取り組み等、広域的な取り組みが可能となった。 ◆イベントを主とした宿泊観光客増は一時的(例:土日祝限定)であり、また受入側の負担増となってしまう。継続的で負担増とならない観光商品(体験メニュー)の開発や受入システムづくり、人材育成が必要。</p> <p>【入込客数の推移】 H24:117万人→H25:126万人</p>	<p>・四万十花紀行事業実施(桜・藤・菖蒲・紫陽花等) ・予土線でのサイクルトレインの運行(4/19～5/25の土・日・祝) ・予土線でのサイクルイベント6/20募集開始(上級150人・初級50人)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・香港国際旅遊展(ITE2014)期間中に、10社商談		【指標】 宿泊者数・入込客数 (H22:86.9万人) 【目標(H27)】 82万人 【H26到達点】 80万人
		【指標】 ジオパークガイド登録者数 【目標(H27)】 10人 【H26到達点】 養成へ向けた認証地等視察及び交流
・予土線サイクルトレイン乗客数132人(上り86人、下り46人)		【指標】 入込客数 (H21:95.5万人) (H24:117万人) 【目標(H27)】 120万人 【H26到達点】 120万人

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>44 竜ヶ浜自然体験・環境教育交流推進事業</p> <p>《大月町》</p> <p>大月町柏島竜ヶ浜に、その植生(県内で2箇所しかない湿地帯)を活かした、自然体験及び環境教育型の滞在交流拠点施設を整備して、交流人口の拡大と地域の経済の活性化を図る。</p> <p>【大月町】</p>	<p>○基本計画策定(H22)</p> <p>○施設整備(H23)</p> <p>○H22ステップアップ事業を活用し基本計画を作成、H23産業振興総合補助金を導入し、キャンプ場(管理棟・炊事棟・駐車場・テントサイト等)の整備及び体験メニューづくりを実施した。H24.4.28供用開始。H25以降、利用者増、収益増のため、さまざまな方策を計画的に実施し、検証していく。</p> <p>H24利用者:4,714名(有料利用者 宿泊1,281人 デイキャンプ378人 シャワー3,056人)</p> <p>H25利用者:4,864名(有料利用者 宿泊1,459人 デイキャンプ306人 シャワー3,099人)</p> <p>◆管理運営を委託する観光協会の収益体制の確立</p> <p>◆施設へ海水浴客等を誘導する仕組みづくり</p> <p>◆県内外へのPR</p>	<p>・ふるさと雇用事業(事業費:5,328,104円)</p>
<p>45 黒潮町の地域資源を活かした体験型観光の推進</p> <p>《黒潮町》</p> <p>黒潮町の豊かな自然環境を生かした体験型観光を推進することで、都市部との交流人口の拡大を図ると共に地域の活性化につなげていく。</p> <p>【NPO砂浜美術館、黒潮町】</p>	<p>○体験プログラムの開発・ブラッシュアップやモニターツアー実施、砂浜美術館Tシャツアート展の広がりやクジラの生態調査など自然環境を活かした取り組み強化、カツオ文化のまちづくりや農林漁家民宿のスキルアップ、スポーツ合宿誘致や大会実施等、地域資源活用型の体験交流地域として、関連団体の連携・強化が実を結びつつある。</p> <p>○入込客数:603,916人(H24)→629,140人(H25)</p> <p>◆インストラクターの養成とスキルアップ</p> <p>◆幡多観光キャンペーンにおける情報発信及びオフィシャルイベント等の企画運営</p> <p>◆高知県及び幡多広域観光協議会等が実施する観光誘致営業活動への参加</p> <p>◆幡多地域の東玄関口となる佐賀道の駅(H25建設)を活用した地域情報の一元発信</p> <p>◆町内の資源を活用した観光プログラムの開発・モニターツアーの実施</p>	

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・雇用1名(ふるさと1名)	・利用者数 42組157名	【指標】 利用者数 【目標(H27)】 8,700人 【H26到達点】 5,000人
		【指標】 ・入込客数 (H22:57.8万人) 【目標(H27)】 60万人 【H26到達点】 69万人